

5. 石盛遺跡

いしもりいせき

所在地：福井市石盛町地係

調査原因：森田北東部土地区画整理事業

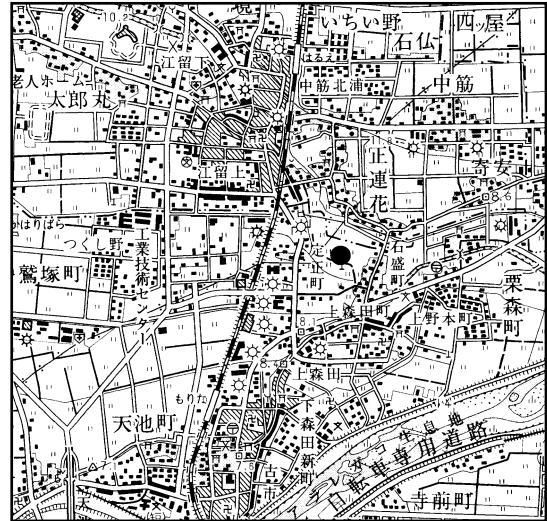
調査期間：平成 23 年 10 月 3 日～

24 年 3 月 30 日

調査主体：福井市文化財保護センター

調査面積：約 2,800 m²

時代：弥生時代～近世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 石盛遺跡は、福井市の北東部、九頭竜川の右岸に位置しています。福井市文化財保護センターでは、平成 12 年度から、森田北東部土地区画整理事業に伴い発掘調査を行ってきました。平成 14・15・18 年度に行った調査では、『太平記』等に記載のある「石丸城」の位置を推定できるなど、主に中世の遺跡としての調査成果を挙げてきました。昨年度の調査では、古墳時代前期の集落跡や、律令期（9 世紀末）の掘立柱建物群が見つかり、中世以前の当地における人々に営みの一端を知る成果を得ることができました。

弥生時代 調査地の西側は低湿地が広がっていました。弥生時代末ごろになると低湿地に向かって溝が掘られました。溝の幅は約 80cm、深さは 30cm を測ります。集落の跡は確認できませんでしたが、低湿地に向かって排水する目的で掘られたものと想定しています。

また、溝と低湿地が埋まって、後から記載する古墳時代の溝が掘られるまでの間に水田が営まれていた可能性があります。

古墳時代 前に述べた水田跡が埋まった後、古墳時代の集落が営まれます。調査地では、竪穴式住居・掘立柱建物が各 1 棟見つかりました。それらの南側には少なくとも 4 条以上の溝が廻っていたようです。溝の底のほうからは古墳時代前期の遺物が、上のほうからは古墳時代後期の遺物がそれぞれ見つかっています。このことから、断続的に人々が住み着いていたことが分かります。また、調査地の南東側で井戸が 1 基見つかっています。

律令期 9 世紀末になると掘立柱建物群が建てられます。ほぼ南北に軸を持つ建物が 4 棟見つかっています。建物群の東側では幅 80cm の溝が掘られており、建物群を区画していたようです。区画溝の北東側では、水路が築かれていました。水路の幅は不明ながら、調査地内の最深部で 1.6m を測ります。水路の南側では、木枠をもつ井戸が見つかり、現在でもちゃんと水が湧き出しています。

近世 江戸時代になるとまとまって井戸が掘られています。全部で 10 基確認しています。何度も掘り直していたようです。

まとめ 弥生時代の終わりごろから当地には人が住みだし、稲作を営んだり集落を築いたりしてきました。律令期には建物群が築かれ、遺物では、円面硯や風字硯、墨書土器などの

官衙や荘家をうかがう資料なども見つかっております。今年度も継続して調査を行っていく予定ですので、過去の調査を含めてこの地の歴史の一端をうかがえる貴重な資料としていきたいと考えています。



写真1 調査地全景（西から）



写真2 水田畦跡？（東から）



写真3 古墳時代の
竪穴式住居と掘立柱建物
（西から）



写真4 律令期の
掘立柱建物群
（南から）



写真5 近世の井戸群（北から）



写真6 風字硯（左奥）と円面硯